

災害時脆弱性がある人々の強靱性(レジリエンス)を構築する防災プログラムの開発

大学院生命科学研究部 教授 大河内 彩子

目的とするSDGsゴール



1. 研究の概要

1) 児童施設のカーボンニュートラルに配慮したBCP（事業継続計画）の策定や介入プログラム開発、2) 熊本地震被災者の受診控え調査、3) バーンアウトが懸念される保健師のメンタルヘルス支援プログラムの開発を通して、災害時に脆弱性がある人々のレジリエンスを構築するプログラムを開発する

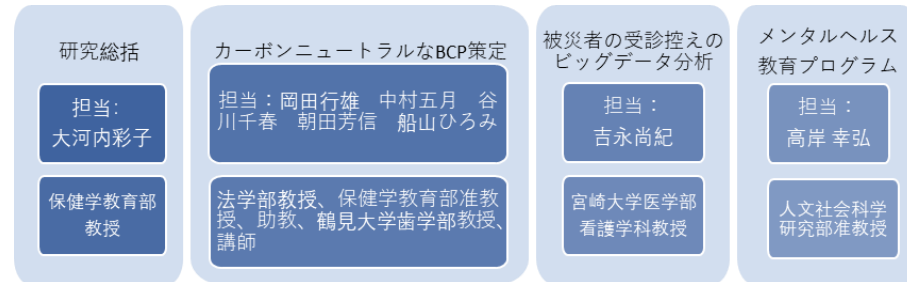


図1：研究の概要および体制

2. 研究の目的

災害時に取り残されやすい子ども、障害者、貧困者、保健師の災害への適応性（レジリエンス）を構築する防災プログラムを策定するための基礎的調査やモデル事業を行い、インクルーシブな国土強靱化に貢献し、カーボンニュートラルを達成する

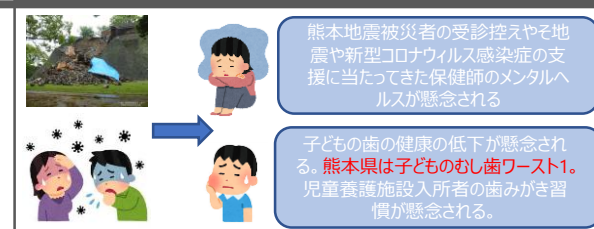


図2：熊本地震と新型コロナウイルス感染症のダブル災害を経験し、健康悪化が懸念される人々

3. 今年度実施した研究

・本年度中の研究の取組

熊本地震被災者の高血圧治療ノンコンプライアンスの分析を行った。児童養護施設における歯みがき指導を介した介入研究を開始した。熊本県と子どものむし歯ワーストワンの対策会議を行った。保健師の働き方の講演を熊本県看護協会で行った。児童養護施設のBCP策定の実態調査の倫理審査申請を行った

・上記の取組によって生まれた成果（SDGs達成へどのように貢献するのか）

地震被災者のノンコンプライアンスと貧困や住居の関連が明確になり、政策立案に貢献した。歯みがき指導ではSDGsの4項目をクリアした歯ブラシを用い、環境負荷を低減した。児童養護施設入所者や保健師のメンタルヘルス改善を推進し、災害時脆弱性を抱える人々の健康と安寧を検討した。

	高血圧受診控え(未治療・治療中断)のリスク	
新型コロナで収入が減少	3.23倍	信頼区間(2.27-4.58)
主観的健康観が不良	2.49倍	信頼区間(1.72-3.61)
現在の住まいが賃貸	1.92倍	信頼区間(1.20-3.07)
公営住宅	2.47倍	信頼区間(1.38-4.42)
災害公営住宅	4.12倍	信頼区間(1.14-14.90)

表1：熊本地震被災者の高血圧治療ノンコンプライアンスのリスク要因 (Ide-Okochi, et al., 2023) (under review)

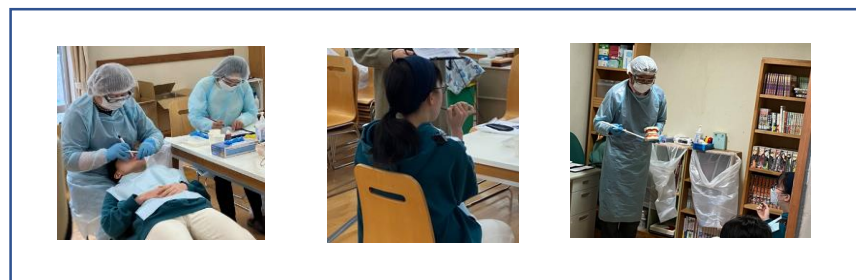


図4：児童養護施設入所者に対する歯みがき指導を介したレジリエンス改善プログラム実施の様子

・今後の展望

地震被災者のビッグデータ分析を行い、糖尿病患者の受診控えの予防策を提言する。児童養護施設入所者の自己効力感改善プログラム開発を行い、教育上の示唆を得る。保健師のメンタルヘルスと働き方の調査や児童養護施設のBCP策定状況と関連要因の調査を行う。これらの研究を通して、誰も取り残さない熊本大学発のSDGsプログラム開発につなげる。

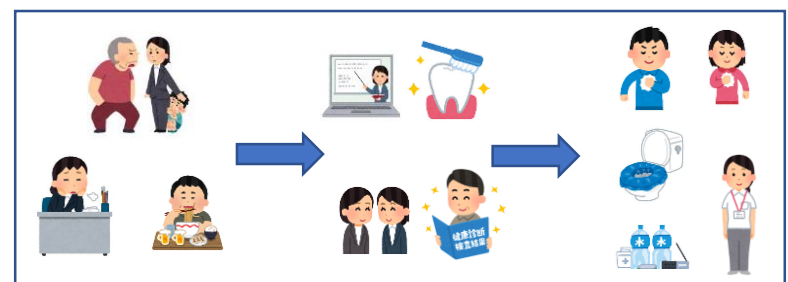


図5：受診控えや支援者疲労や虐待経験をもつ人々の健康とウェルビーイングを改善する介入プログラムや調査を行い、自信やサステナブルな働き方やBCP策定につなげるための概略図